

【部活理念】

部員一人ひとりの人間力を高め、社会において即戦力となる人材を育成します。一人一人が主役となる。

【日々の活動】

個人の社会性を高めるため、日々の活動は各自が自分の役割を果たし、社会や学校・部活全体に貢献できるように努める。

【授業に対して】

授業においては、全校生徒の手本となるよう心がけ、積極的に取り組み将来の自分に役立てようと努力しています。

自分が社会に出た時、また会社等で指導的立場に立った時を想定し、聞き手の理想像に近づく様に努力します。

提出物と言うまでもなく期限内に提出し、なおかつ丁寧に仕上げることを当然とする習慣を身に着けます。

まずは基本的な生活習慣の徹底、学校生活全般から取り組みます。

【環境整備】

細かいことであるが、出来ること・簡単なことから実践します。

- ・豊かな環境に豊かな心が育ちます。
- ・美しい環境に美しい心が育つ。
- ・服装の乱れは心の乱れ。
- ・TPO に応じた服装。
- ・ゴミを目にしたら拾う。
- ・荷物が乱雑であれば整える。
- ・当たり前のことであるが、落ちているゴミをゴミ箱へ運んでいるだろうか？
- ・教室の椅子は、きちんと収納しているだろうか？

【自主性を育てる】

自主性を育てることは、まずは生徒自らの考えで取り組ませた上で、その結果を踏まえ、修正したりアドバイスしたりすることから始まると思います。

また、指導を受ける側としては「自分がやっても、どうせ後で修正されるなら、やってもやらなくても一緒だ」などとい

うような思考は、自らの成長の妨げとなるばかりか、周りの士気まで低下させてしまいます。

当然のことながら、前向きな姿勢の人間が集まり、大きな力となり一体感が生まれます。

また仮に失敗をしたとしても、その経験は、後々貴重な宝物となることは言うまでもありません。自分が「やる」と「やらない」では差があるのです。指示待ちではなく自らの思考で積極的に行動できる生徒を育てたいと考えています。

先にも述べました通り、自主性・主体性を育むためには生徒自身が考えて解決していく事が大切です。指導者(顧問)と生徒が一緒になって取り組み、生徒の主体的な活動を我々が引き出す事が必要です。

今、この部活動にはどのような問題があるのか。誰が決めて決定しているのか。部活動の方針や目標、練習内容、日程などシートを活用して主将が中心となり生徒たちが話し合っ決めていく。こうした取り組みを行い、生徒たちが「自分たちで決めた目標なのだから頑張ろう」とやる気が生まれてきます。

【生徒と顧問の両者が納得する

プロセスがベスト】

生徒の発言権を大切にしていける事で、部活動の教育的価値が高まると思います。

結果だけを追い求めるよりも、自分達で考え部員全員で合意したことの実践が結果として結びつき、成果として現れてきたのだと考えます。

あくまでも顧問は相談役に徹しているのが現状です。

【サポート体制の充実】

技術指導については、島根県ライフル射撃協会の高橋会長をはじめ、元オリンピック選手による実技指導、県体育協会スポーツ医科学サポート事業(メンタルトレーナー・理学療法士・スポーツファーマシスト・スポーツ栄養士)より派遣して頂いている講師の先生方による指導など、多くの皆様方にご支援ご指導を頂いております。

また、指導して頂いた内容について、ノート・ファイル・スマホ機能を使ったアプリ等にまとめ、定期的(月2～3回程度)ミーティングを行い見直すようにしています。

【ジュニア世代の育成】

2029年に開催予定の『島根国スポ』に向けて、平成25年にライフル射撃ジュニアクラブを設立し、現在では80名を超える小中学生の指導及び「しまね未来のアスリート育成事業」スタッフとして、ライフル射撃競技の普及活動に力を注いでいます。

【日本一達成(大会新記録)】

令和元年度 JOC ジュニアオリンピックカップ兼第30回 ISFF ジュニアライフル射撃競技選手権大会ビームピストル女子60発競技に於いて、1年生の羽田向はねだ ひまり選手が、競技を始めて5か月にも関わらず、大会新記録で優勝する事ができました。

羽田選手は入学して間もない、1年生6月の中国高校選手権大会に於いても優勝しており、射撃センスは抜群にあります。

今年度の各種大会でも期待しておりましたが、新型コロナの関係で学校射撃場での練習が出来ない日々が続き、個人で出来るトレーニングを毎日重ねる等の努力を欠かさず次の大会に向けて準備をしています。

一日も早く収束し全員が安心して活動が出来、皆さんに恩返しができる様に今後も精進努力致しますので、引き続き応援宜しくお願い申し上げます。

【最後に】

最後になりましたが、この様な紙面でご紹介できる程の指導力もない、しかも専門外の私に機会を与えてくださいました、島根県体育協会の皆様方に感謝申し上げますと共に、内容の乏しいつたない文章になりましたことをお詫びしてペンを置きたいと思っております。

今後共、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

誠にありがとうございました。

コロナ禍の中で

世界的パンデミック「新型コロナウイルス」感染拡大の影響により、日常生活が一変してしまいました。

東京オリンピックの延期を始め、国体、インターハイなど主要な全国大会は中止となってしまいました。

徐々にスポーツ活動が再開されるなか、本編にも登場しました羽田選手は、リモートで開催された2020全国高校スポーツ射撃大会ビームピストル女子40発競技で自身2度目の全国優勝の栄冠に輝き、コロナ禍の中で私達に明るい話題を提供してくれました。

今回、執筆を頂きました木原一也先生は、冒頭のプロフィールのとおり、専門教科は“音楽”であります。ライフル射撃の競技経験はありません。しかし、部員のやる気を引き出す細やかなサポートと、部活動の充実を図るためのマネージメントを行う指導により、近年の素晴らしい成績に繋がっていることと思います。

また、学校を開放し小中学生のライフル射撃教室を開催し競技の普及活度にも積極的に取り組んでおられます。

結びに、専門分野であります音楽でのご活躍を紹介いたします。

【音楽関係プロフィール・受賞歴】

平成7年 全国高校総体松江会場

競技別式典音楽隊指揮者

平成12年 島根県吹奏楽連盟

優秀指導者表彰

中国支部吹奏楽連盟

優秀指導者表彰

平成16年 全国高校総体(中国04総体)

イメージソング選定委員

公開演技マーチングバンド

総合指揮者